

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知 5 3 6 7 - 4 (電話) 0 5 7 5 - 2 1 - 7 0 1 1		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年4月11日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】 (平成 20 年 3 月 24 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	20,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 3 月 24 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.2 歳	最低 82 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	関中濃厚生病院、関中央病院、早川医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の特別養護老人ホームに寄り添うようにホームが作られ、理事長の考えの元、「わははと笑い、まめなかなと声をかけ」という理念に添って、職員ものびのびと利用者の生活を支えている。母体法人との医療面での連携や、24時間体制の往診医師との連携は利用者と家族の大きな安心感へと繋がっている。利用者は「自分のことは自分で」と笑顔で語り、仲間の配膳や下膳も行っている。住民と一緒にのおやつ作りや実習生がボランティアで再びホームを訪れるなど、地域との関わりが自然に行われている。その日その季節を楽しみながら、ゆったりと暮らし、利用者と共にいられることが唯一の幸せだと答える開所当時の職員によって、さりげないケアが行われ、自立した生活ができるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった「理念の共有」「プライバシーの確保」「外出支援」「居室の配慮」などは話し合いを重ね、改善が見られた。「市町村との連携」に関しては、今後の課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は項目の一つ一つを読み込んでおり、評価の意義も十分に理解して取り組んでいる。職員は日ごろのケアに追われ時間的余裕がなく、今回は、管理者による自己評価作業が行われた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会側の都合により、運営推進会議への参加はないが、この会議が地域との繋がりにとって重要かつ貴重であるという認識をしておき、家族は勿論のこと、様々な形で広く参加を働きかけ、住民と一緒におやつ作りを行い、住民に運営推進会議に参加してもらうなど、ホームと地域・住民との繋がりを一層深める計画がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に健康面などの詳細な報告を行い、家族会は年に3回行っている。全体的なホーム便りと個別の便りを作成し、利用者の日ごろの様子が分かるよう配慮している。家族会行事後にアンケートを行い、それを次の家族会に反映させている。家族アンケートには職員に対して感謝とねぎらいの言葉が多く、日常の理念に沿った暖かい支援が裏付けられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のふれあいサロンへの参加や小学校の運動会を訪問するなど、地域の中で自然に馴染み暮らしている。実習の学生や看取りを行った家族から、ボランティアの申し出があるなど、心温まる交流をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する」という理念は、理事長の考える基本に基づいた方針であり、グループホームのケアの指針ともなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りや毎月行う職員会議では、常に理念を確認し合い、管理者と職員は「ゆっくりゆったり、わははと笑い」をキャッチフレーズに「利用者の幸せ」を目標にし、理念に沿った日々の支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会側の都合により加入はしていないが、ふれあいサロンの参加や地元との交流が柔軟に行われている。また、住民とはおやつ作りの交流を通し、さらに周囲に広げていく計画をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分理解しているものの、職員には時間の余裕がなく、全職員による自己評価の過程が行われず、質の確保に活かされていない。	○	サービスの質の向上には、職員間で行う自己評価の過程も重要なポイントとなることから、より良いホームとなるよう、全職員による自己評価作業を行われたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会側の都合により自治会役員の参加はないものの、避難訓練と会議を同じ日に重ねるなど、家族も参加できる工夫をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政は運営推進会議の参加に留まっており、次の場面への展開や協働には至っていない。	○	市町村担当者に認知症を理解してもらい、地域に啓発できるよう、様々な要望や相談を通して、連携と協働に繋がるようなホームからの働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全体的なホーム便りと個別の便りを家族に送り、健康面の報告はその都度連絡している。金銭に関しては出納帳を毎月送り、家族の確認も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に3回行い、また、行事後はアンケートを家族に記入してもらい、次回の行事に活かしている。家族からは、ホームに対して感謝やねぎらいの声が多く、職員の喜びにも繋がっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当時からほとんど離職がなく、グループホームに対する理事長の理解もあり、法人内の異動は極力行われていない。新任者が入った場合、服薬など重要なポイントでは既職員が行うなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修は、働きながら学ぶ仕事であるという理事長の考えで、勤務扱い・法人負担費用で行い、その内容は全体会議・ホーム会議でも報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているものの、同業者同士の交流には至っていない。	○	支部長として同業者同士をまとめ、地域の同業者と手を繋ぎ、相互交流や情報交換を通して地域全体のサービス水準と質を向上させるような取り組みに期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接を経て、法人内の通所施設の利用・グループホームの体験入居を何度も行い、遊びに来る感覚で徐々に慣れてもらった上で入居してもらう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年配の職員が多く、利用者と共に暮らし、お互いにお互いを支えあっているという暖かさが、リビングに集う利用者の表情に出ている。ホームが目指す「教えて頂き支えあう関係」が、しっかりと出来上がっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、気づきは、個別記録に看護・生活面とペンの色を変えて記入し、職員間で一人ひとりの把握ができるよう工夫している。入居時に本人や家族から生活歴を聞き、少人数のグループホームしかできない、きめ細かいケアと支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、本人の意向や希望を拾い上げて介護計画に活かす取り組みをしている。職員会議の中でも話し合い、家族の訪問時や電話などで意見を聞き、その上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じ、急変時は勿論のこと、2ヶ月に1度は、家族に確認をしてもらった上で見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の看護師による24時間対応、法人内の福祉用具事業所の迅速な対応が可能であり、利用者と家族の安心感を得ている。家族は食費のみでホームに宿泊もでき、柔軟な支援と体制作りがされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診は月に2回行い、歯科などの往診も行われている。かかりつけ医は、夜中でも連絡ができる体制もできており、また、ホームへの入居時に法人内の特別養護老人ホームへの同時申し込みを行うなど、家族と本人の安心感に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しては、入居時に特別養護老人ホームでの対応となることを説明し、事前確認書も交わしている。その際には何度も繰り返し施設長・管理者・家族・医師・看護師と話し合いを重ね、家族の心をも支える支援が慎重に行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の改善課題であった「トイレ誘導の声かけ」に関しては、さりげなく支援する見直しが行われた。個人情報、情報漏洩防止の原則を定め、職員に周知させている。理念に沿って尊厳を大切にするケアが実施されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は利用者のペースに任せ、夜間眠れない人は、夜勤の職員とリビングで一緒に過ごしている。また、朝食内容は、その人その人の好みによってパン、お粥、ご飯などから選択できる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や状況によって、通常食と同じものを刻みにしたりとろみを付けたりと工夫している。また、畑の野菜は利用者が収穫し、取れたて野菜の皮むきや下準備も行っている。職員は食事介助をしながら同じテーブルに付き、和やかな雰囲気が感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回行い、日によって北海道の湯・有馬の湯と入浴剤を変えて香りを楽しんでいる。入浴の順番は利用者同士が楽しんでじゃんけんで決めるなど、日々の生活の中に笑いを取り入れた支援がさりげなく行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	喫茶店のモーニングやランチへ、週に1度、少人数で出かけ、ゆっくりと話ができる時間を持てるような配慮が行われている。誕生日にはケーキでお祝いし、花束をプレゼントするなど、ホームと職員による暖かい心配りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせて職員が付き添い、散歩や外出を行っている。また、年間行事では外に出かける機会を多くし、外気に触れ、生きる喜びを見出せるよう配慮と支援をしている。昨年は、管理者と職員の取り組みで、利用者の念願であった墓参りと実家訪問を実施した。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は網戸になっており、爽やかな風がリビングを吹きぬけ、その開放感はホーム全体を包んでいる。掃きだし窓も施錠されておらず、抑圧感のない自由な雰囲気がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平常時から飲料水は備蓄しており、食品の備蓄は併設施設で行っている。消防署による訓練は年に3回行われているものの、普段、日常的な訓練は行っていない。	○	災害を想定し、職員の動き方や必要なことを話し合い、日常の訓練に活かされたい。また、地域の広域避難場所とその経路は、家族に知らせておくなどの配慮が望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員がその日その日に、利用者の希望に沿って調理しており、ほとんど毎回完食である。食事の量は個別記録に記入し、変化時には即対応ができるよう、常に把握している。水分はこまめに取るよう、食事の際とおやつ時などにも配慮して摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはコタツが備えられた和室もあり、気の合った利用者同士が、のんびりとソファに腰かけ、昼下がりのゆったりとした時間を思い思いに過ごしている。トイレには利用者の手が届かないよう高い位置に洗剤などが置かれ、安心と安全の配慮がさりげなくされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドはホームが無償で提供し、ダンスやロッカーは利用者が馴染んだものを持ち込んでいる。居室の壁には家族の写真が貼られ、入り口には利用者自身による貼り絵の作品が飾られるなど、その人その人の個性豊かな居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。